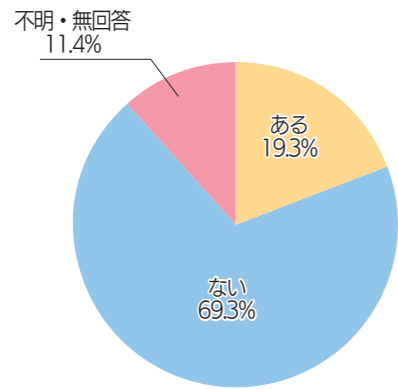


市民問3 パートナーからDV（ドメスティックバイオレンス）を受けた経験は？



ポイント

DVを「受けたことがない」人が全体の約7割でしたが、5人に1人がDVを「受けたことがある」ことがわかりました。

DVを受けた人の被害内容については、男性は「無視」が最も多く、次いで「収入に対する叱責」「脅し、怒鳴る」と続き、女性では「脅し、怒鳴る」が最も多く、次いで「殴る、蹴るなどの身体的暴力」「交友関係のチェックや制限」という結果でした。また、DVは本人同士の話し合いで解決できるものではないにもかかわらず、解決策として「本人同士の話し合い」と挙げている市民が多く、DVについての基本的な知識の普及が課題であることが明らかになりました。

令和3年度に実施する「第3次男女共同参画計画(まいつらん)」の間見直しのための基礎調査として、市民や事業所の皆さんの男女共同参画に対する考えや現状を把握することを目的にアンケート調査を実施。その結果を抜粋してお知らせします。詳しい調査結果はホームページでも公開しています(左ページからアクセス可)。

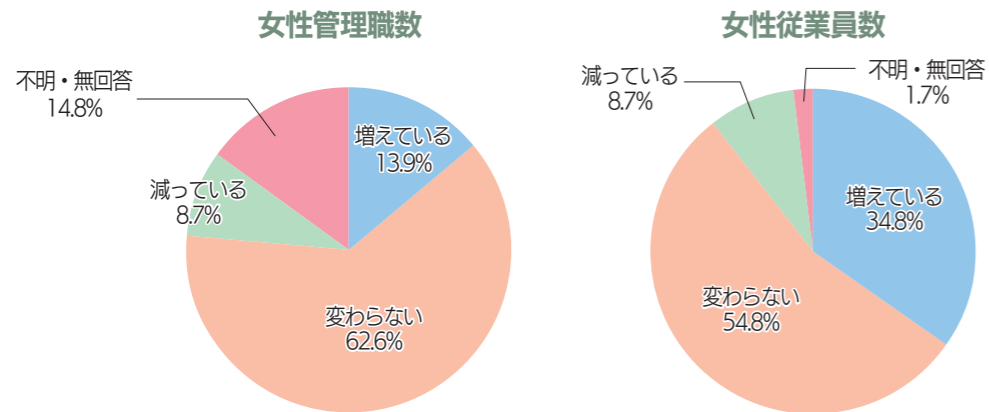


- ◆調査概要  
令和2年8月1日～21日
- 【調査期間】
- 【対象】  
◆市民：住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上2,000人  
◆事業所：市内に事業所があり従業員数10人以上の事業所313社
- 【回答数】  
◆市民：792件  
◆事業所：115件
- 【その他】  
小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの内訳の合計が100.0%を超える場合があります。

結果発表！  
これからも継続した啓発・取り組みが必要  
～男女共同参画に関する市民・事業所アンケート調査～

男女共同参画情報  
**かがやき**  
[第76号]

事業所問1 5年前と比べて女性の雇用状況は？

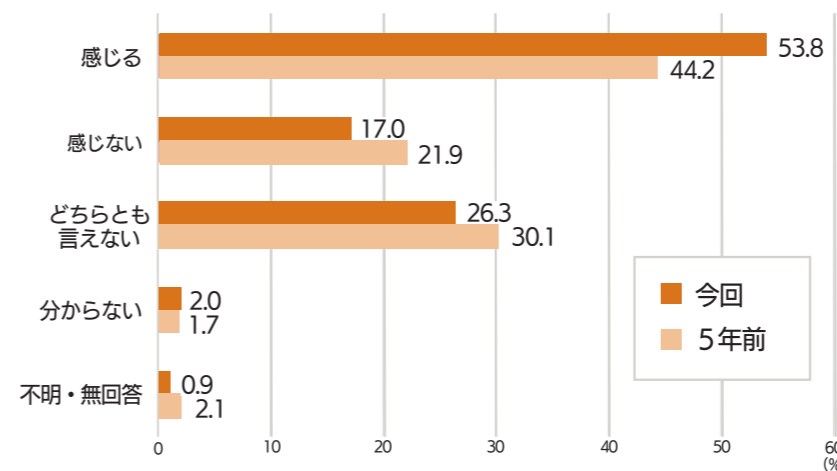


ポイント

ワーク・ライフ・バランス向上のための取り組みについては「どちらかといえば必要」を合わせた『必要』の割合が8割以上となりました。

ワーク・ライフ・バランス向上の取り組みは多様な人材が働きやすい環境につながり、男女共同参画社会の実現においても重要で、事業者の関心も高くなっています。

市民問1 「男は仕事、女は家庭」といった考え方に抵抗は？

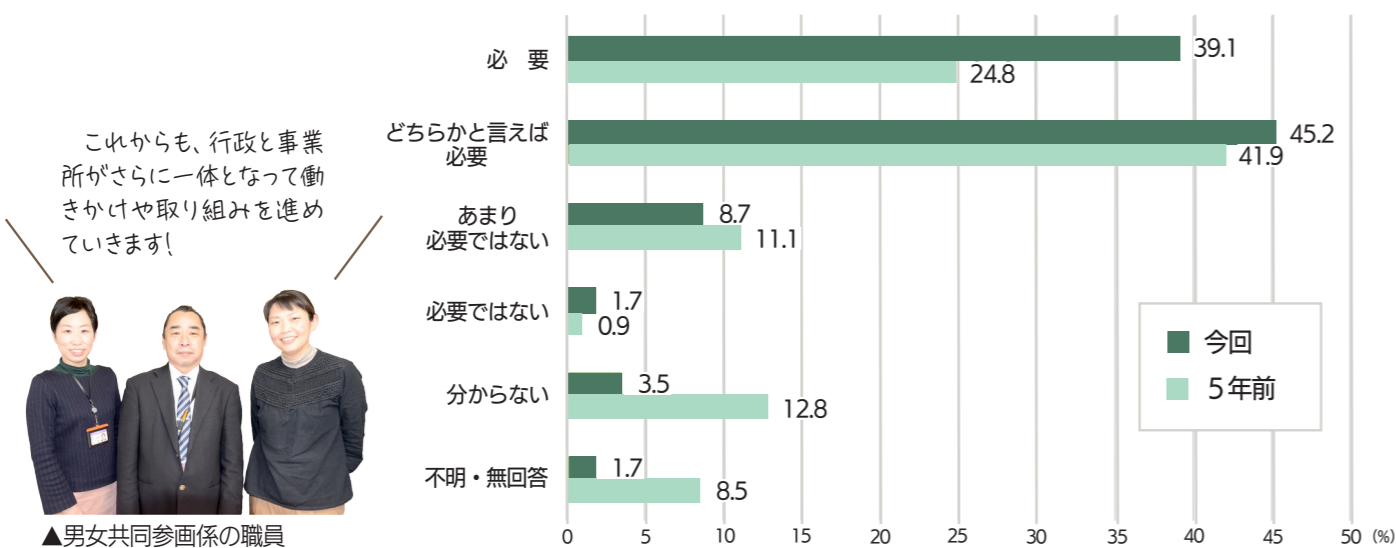


ポイント

問1では「男は仕事、女は家庭」という考え方に約半数が「抵抗を感じる」と回答。5年前の同調査と比べて約10%増加しており、性差による役割分担に対する意識が変わってきていると分析します。

一方で、問2については、場面に関係なく「男性が非常に優遇されている」と感じている人が多いことがわかりました。

事業所問2 ワーク・ライフ・バランス向上のための取り組みは必要？



▲男女共同参画係の職員

市民問2 現在の男女の平等性について

